

守るべきルールを知るだけでは、取組みは進まない  
守らねばならない理由と、取組む方法を知る

## eラーニング 労働時間管理は企業のリスク管理

改めて労働時間管理について基本から応用まで学んでほしい管理職や職場のリーダー向け

労働時間管理は命と健康の問題！「早く帰れ」と声をかけるだけでは帰れない。

「何を守るのか」を知っていても、多くの職場で取組みが進まないのは「なぜ取組むのか」という理由が正しく理解されていないからです。問題の本質は、残業手当の支払い=コストの問題ではなく、部下の命と健康=安全配慮義務の問題です。また「どのように取組むのか」という方法も具体的に分からないので、「早く帰れよ」程度の声かけで終わっており、効果がなく、形だけの取組みになっています。

本研修では、労働時間への取組みは企業のリスク管理であり、職場を導くのは管理職の役割であることを、リスクマネジメントの観点から理解するとともに、リスクが発現したときには、社員の命と健康の問題も含めて、深刻な被害が発生することを知り、取組む理由として認識します。取組む方法は、現在の効率化された職場では、個人の意識や工夫に任せては、取組みは進まないことを知り、組織として取組む方法を事例とともに学びます。

- ・講義→全部で約2時間。平均12分の動画10本で構成→ご都合に合わせて取組むことが可能です。
- ・個人ワーク→講義だけでなく、演習で自分の職場の状況を振り返って、講師の解説で学びを深めます。  
また、最後に自分の職場での進め方を検討いたします。

- 受講対象 管理職や職場のリーダー ※新任管理職の教育にもご活用ください。
- 受講期間 視聴開始から 1ヶ月間 所要時間 講義動画約2時間+個人ワーク30分
- カリキュラム

### ◇オリエンテーション

サンプル動画はこちら→



- 1.労働時間管理の法的な枠組みと管理職の役割 ~「何を守るのか」~
- 2.労働時間管理は企業のリスク管理 ~「なぜ取組むのか」~
  - (1)労働時間問題に対する世の中の認識の変化(コストの問題→命と健康の問題)
  - (2)リスクマネジメントで労働時間の問題を捉える(リスクが発現したときの被害を想定)
- 3.職場で取組みを進めるための具体的な方法 ~「どのように取組むのか」~
  - (1)個人任せにせず、職場での現実的な対応策を管理職が進める
  - (2)具体的な対応策、講師が実際に実践を指導した5つの事例から学ぶ
    - ◆忙しいときの協力体制づくり ◆個人が抱え込んでいた仕事を組織で対応
    - ◆業務量の偏りに対応した業務分担の見直し ◆中途採用者の戦力化の推進
    - ◆育児・介護をカバーできる体制づくり



受講料 ※原則**5人以上**からのお申込みください。人数が多くなるほど割安になります。  
受講人数をお知らせいただければ、改めて御見積いたします。

(消費税別)

人数(人)	受講料(円)	費用/人(円)
10	35,000	3,500
25	60,000	3,000
50	120,000	2,400
100	170,000	1,700

※ 5名を下回る場合、100名を超える場合は、お問合せください。



講師紹介 株式会社日本人財研究所 代表取締役 末村 誠規 氏



- メーカーの人事労務部門で24年間勤務。人事課長、労政課長などを務める。
- その間、多くの収益改善策に取組み、実践から組織マネジメントを習得。
- 2009年退職。株式会社日本人財研究所を設立。
- 企業、官公庁で、研修、講演を提供するとともに、企業の管理職に対して組織運営の個別指導を実施し、600を超える職場の運営を指導してきた。自分自身の経験や、企業の管理職を指導した具体的な経験から、現実を踏まえた、実践的な指導で好評を得ている。



お申し込み

下記にご記入の上、このまま **FAX 073-422-0416** にご送信いただくか  
下記の内容を記したメールを **info@w-keikyo.com** までお送りください。

事業所名	
受講代表者氏名	所属・役職
TEL	メールアドレス
受講人数	
希望するオプションについて(○印) ※費用は消費税別で表示	
◆ 受講アンケート (費用は人数に関わらず 2万円)	◆ 理解度確認テスト (費用は人数に関わらず 2万円)



お問い合わせは…  
和歌山県経営者協会 (担当:津田)

和歌山市十番丁19番地 Wajima十番丁ビル3階  
TEL:073-431-7376 FAX:073-422-0416  
E-mail:tsudak@w-keikyo.com